

マタイ28章18-20節 「大宣教命令」

1A 天地における権威 18

1B 死からの甦り

2B 地における権威

3B 天における権威

2A 福音宣教の命令 19

1B 遣わされた御子

2B 聞いて信じる御言葉

3B 聞いた者が伝える義務

4B 三つのステップ

1C 出て行く

2C バプテスマを授ける

3C 教える

3A 共におられる主 20

1B すべての民

2B 聖霊の力

本文

マタイによる福音書 28 章を開いてください、私たちはついに、マタイによる福音書を今日、完読します。今朝は最後の 3 節、18-20 節に注目します。私たちキリスト教会に対する、イエス様の命令で、しばしば「大宣教命令」と呼ばれます。「18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」」

私たち教会が、何のために存在しているのか？二大柱とも言うべき二つの目的がありますが、その一つがこの大宣教命令です。もう一つは、主を主としてあがめること。礼拝することです。これが第一にあります。イエス様が地上に戻れば、この世界が神の支配の下に置かれます。キリストが王とされます。けれども、御霊によって新しく生まれた私たちは、その日に先んじて、御霊によってこの方を王として、また主としてあがめます。これが第一の目的です。そして第二の目的が、ここにあります。

主は、ご自分の民から礼拝を受けることを願っておられ、また礼拝をしている者たちが、まだご自身を知らない者たちにご自身のことを知らせたいと願われています。エジプトで奴隷生活をして、抜け出たばかりのイスラエルの民に対して主は、「出エジ 19:5 あなたがたはあらゆる民族の中に

あって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。」と言われました。彼らをご自身の民とただけでなく、その民があらゆる民族の中にある、宝となることを願っておられます。イスラエルの民と同じように、異邦人も加えられた教会も、同じように主がおられることを人々に知らせるべく、立てられているのです。そもそも、神がアブラハムを選ばれたのは、「地上のすべての部族は、あなたによって祝福される。(創世 12:3)」ということですから、これが神の御心なのです。

けれども、自分がキリストにあって選ばれたことは受け入れられるにしても、まさかこんな小さな者が、こんな大きな神のプロジェクトに加わることはできない、おこがましいと思われるかもしれません。しかし、イスラエルはちょっと前まで奴隷でした、奴隷あがりの集団にそのような使命を与えられたのです。そしてちょっと前までイエス様を見捨ててしまって、その後はユダヤ人たちが恐くて戸を閉めていた弟子たちに対して、イエス様は「あらゆる国の人々を弟子としなさい」という命令を出されたのです。これは、私たちの器が大きいかという問題ではなく、「小さな者を用いる、大きな神」という奇跡を行われたいと願われているからです。

1A 天地における権威 18

1B 死からの甦り

イエス様は、「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。」と言われました。これは、とんでもないすごい発言です。けれども、イエス様が復活された後にこのことを言われたということがとても大切です。

マタイによる福音書には、キリストには権威がある、王としての権威があるということを強調していました。山上の垂訓をイエス様が終えられた後に、人々の反応がどうだったかを思い出してください。「7:29 イエスが、彼らの律法学者たちのようではなく、権威ある者として教えられたからである。」そして、イエス様は、らい病人を清められたり、悪霊を追い出されたりして、ご自身に与えられた権威を用いて行かれました。けれども、イエス様は十字架の道を歩まれました。そして、数多くのそしりを受けました。「神の子であれば、今、十字架から降りてもらおうか。他人は救っても、自分は救えない。」という罵声です。その通りにはせず、そのまま他の罪人と同じように死に、墓に葬られました。しかし、主は、ご自身に与えられた力は、愛に基づくことを知っておられました。人々を救うための愛、失われ、滅ぼされていく者たちのために、自らが神に呪われた者とされる道を選ばれた愛です。

そして、十字架の死に至るまで父なる神に忠実であられたので、神がこの方を死者の中からよみがえらせたのです。死者からの甦りによって、この方は確かに神の御子であり、地上にある、また天上にあるあらゆる権威が、与えられていることが明らかにされたのです。「詩 2:7-9 「私は【主】の定めについて語ろう。主は私に言われた。『あなたはわたしの子。わたしが今日あなたを生んだ。わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与える。地の果ての果てまであなたの所有として。あなたは鉄の杖で彼らを牧し陶器師が器を砕くように粉々にする。』」あなたを生んだ、という言葉パウロは引用して、これが復活を表すことを教えました(使徒 13:33)。そして、ロマ人

への手紙 1 章で、こう説明しています。「1:3-4 御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。」神が、復活によって、この方にご自身の一切の権威を授けていることを明らかにされたのです。

2B 地における権威

すべての権威がわたしに与えられているということですが、ロサイ人への手紙 1 章にて、こうパウロは言っています。「1:15-17 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。」コロサイの人たちは、いろいろな力を信仰していました。あそこの神が、こちらの神がこんなことをしたとか、そしてきちんと仕えなければ、罰が当たるといような見方をしていました。何か悪いことが起これば、それは何かの神から呪われたからだといような見方です。けれども、パウロは、すべては、その目に見える力も見えない力も、御子によって造られて、御子によって成り立っていると説明したのです。私たちに、どんなことが起こっても、すべては御子によって造られ、御子によって成り立っているのですから、主がすべてのことを相働かせて益としてくださる、ということなのです。

3B 天における権威

そして、注目していただきたいのは、地上だけでなく天においても、一切の権威が与えられていると言われます。目に見えないもの、主権や支配、権威、と書かれてあるところは、目に見えない力のことです。目に見えることだけではなく、見えないところにも一切の権威が与えられています。その中で最も大きな権威は、「罪を赦す権威」でした。中風の人が出て、その人に対して「あなたの罪は赦された」と言われましたが、それを聞いた律法学者は心の中で「神を冒瀆している」と言いました。彼は正しかったのです、罪を赦すことは神のみができることです。イエス様はその権威が与えられていましたが、それを明らかにするためにその中風の人を癒されました。そして、数々の悪霊を追い出され、霊を制することがおできになりました。

2A 福音宣教の命令 19

こうして、一切の権威を持っておられる方が、厳粛な命令を弟子たちに与えられました。「**あらゆる国の人々を弟子としなさい**」ということなのです。

1B 遣わされた御子

神は、ご自分が世界で働かれる時、ご自分の選ばれた者を通して働かれます。神は選ばれた者を立て、それを遣わし、そしてしかるべきところで、ご自分の権威を執行するように命じられます。イエスこそが、神の使者であられました。復活された後に、弟子たちに言われました。「父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。(ヨハネ 20:21)」イエス様ご自身が父なる

神から遣わされたのです。ですから、弟子ピリポが、「私たちに父を見せてください。」とイエス様に頼んだ時に、イエス様は、「わたしを見た人は、父を見たのです。(ヨハネ 14:9)」と言われたのです。在日の米大使が日本で何かを行う時、それは米国を代表して行っており、大統領自身がそれを行なっているのと同じように見なされるように、イエス様は父なる神が行なわれていることを行われ、この方の中におられ、それゆえご自身を見れば、父なる神を見ることと等しかったのです。

それと同じように、わたしはあなたがたを遣わすと言われました。父なる神の権威から始まり、それが子なるキリストの権威となり、そして弟子たちに権威が与えられているのです。弟子たちを見れば、イエスが見えるということでもあります。神は世を愛されているので、ご自分の独り子を遣わされました。御子にあって、神の愛が示されました。同じように、キリストの弟子たちが、キリストが愛されたように互いに愛せば、その関係性の中にキリストを見ることとなります。「ヨハネ 13:35 互いの中に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」ですから、私たちの間にある愛の関係性こそが、すでに私たちがキリストに遣わされていることを示しているのです。

2B 聞いて信じる御言葉

そして、私たちは遣わされることによって、福音を宣べ伝えます。行いだけでなく、言葉と行いによって福音を伝えます。パウロが言いました、「ロマ 10:14-15 しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあるようにです。」自分がイエス様の名を呼び求める時に、それは信じているから呼び求めることができます。そして信じられるのは、キリストについての言葉を聞いているからです。そして聞くことができるのは、遣わされている人がいるからです。みなさんが、イエス様の名を呼び求めているなら、絶対に必ず、このように伝えてくれた人、遣わされた人がいるからです。昔も今も、生活の全てを犠牲にして、自分の住み慣れた場所から出て行き、ただ福音を聞かせるためだけに日本に来た人々がいます。宣教師たちです。しかし、宣教師と呼ばれなくとも、私たちはキリストによって、教会の出口から出たら、そこから一人一人が福音を伝える使命を帯びています。

3B 聞いた者が伝える義務

聞いた者は、伝える義務があります。「ロマ 1:14-16 私は、ギリシア人にも未開の人にも、知識のある人にも知識のない人にも、負い目のある者です。ですから私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。」パウロは、自分自身のことを「負い目のある者」と呼びました。彼によって福音を伝えることは、伝えないと災いにあうという使命感によるものです。自分がイエス様を信じて、罪赦されて、救われたのだから、この救いの使信を他の人にも伝えなければいけないという重荷です。

4B 三つのステップ

ここにイエス様は、人々をご自身の弟子にするための三つの行動について語っておられます。

1C 出て行く

一つは、「**あなたがたは行って**」であります。ここで出て行くというのは、自分が快適にいられるところから出て行って、という意味合いが強いです。弟子たちがユダヤ人たちが恐くて、戸を閉じていましたが、そういった心の戸のようなものから、出て行って弟子を造りなさい、ということです。私たちが、ここ西日暮里で教会を行っていますが、これも、ある意味で遣わされていますね。主が、この地域に、この地点に遣わして下さり、ご自分のことを行おうとされています。

そしてまた、さらに私たちはここから、いろいろなところに出て行きます。自分の職場、自分の家族、自分の知り合い、そしてある人はもしかしたら、遠くの国かもしれません。韓国系の教会の牧師さんが、仕事で日本に来ている韓国人の人たちに良く言います。「あなたは、お金儲けのために日本に来たかもしれません。けれども、実は商売ではなく、福音のために遣わされていたのです。」今、置かれているところで遣わされているのです。自分は自分の判断で、ここで働く、あそこで働く決めてはいるかもしれませんが、実はそこに神の御手があります。

2C バプテスマを授ける

次に、「**父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け**」なさいと言われます。イエス様が、このことを言われているのは明らかに、ご自身がバプテスマを受けられた時のことに倣いなさい、ということです。「**マタイ 3:16-17 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」**父なる神が天から声があり、そして御霊が鳩のように降ってきました。そして今、父と御霊に御子ご自身が加わり、三位一体の神の名によって、私たちがバプテスマを受けることになるのです。ところで、興味深いことに、ここでの「名」は、単数形です。三人の神がいるのではなく、ひとりの神であります。

イエス様が水の中に入り、それでご自身が神の御子なのに、私たちと一つになって生きられたように、今度は私たちが、三位一体の神につながるバプテスマを受けることによって、イエスに連なる者として、この方に結ばれた生き方をしていきます。

3C 教える

そして、「**わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。**」と言われます。ですから、これは単に福音の言葉だけでなく、福音書においてイエス様が命じられたことを全体として守るように教えるということです。弟子となっていくには、聖書によって整えられていく必要があります。「**Ⅱテモ 3:16-17 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。**」

3A 共におられる主 20

1B すべての民

こうした命令をイエス様から与えられた時に、弟子たちは、また私たちは、圧倒されてしまうのではないのでしょうか？「あらゆる国の人々」ですから、ガリラヤの片田舎に住んでいる、ちょっと前に主人であるイエスを見捨ててしまった弟子たちに、どうしてそんなことができるのでしょうか？そんなことはできっこないと思いますね。

2B 聖霊の力

そこで忘れていただきたくないのは、イエス様が言われた「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。」ということなのです。そして、「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」と言われました。すべての権威が与えられている方ご自身が、御国が到来する世の終わりまで、ずっと共にいてくださるのです。主がモーセを遣わされた時も同じ約束でした。かれが、「私は、いったい何者なのでしょう。ファラオのもとに行き、イスラエルの子らをエジプトから導き出さなければいけないとは。」と言った時に、主は、「わたしが、あなたとともにいる。これが、あなたのためのしるしである。」と言われました(出エジ 3:11-12)。

主が共におられるということが、遣わされている者たちの最も大きな特権です。自分には何もなければ、主の御名があるということです。自分がどこかに行き、それでイエス様が助けてくださるというよりも、イエス様のおられるところに自分が向かうという感じです。主のご臨在を、宣教の働きをしている時にこそ最も強く感じます。

ですから、聖霊のバプテスマを受ける必要があります。「使 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に来るとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」聖霊が降れば、イエス様ご自身がおられるということです。主が共におられて、彼らの間で働かれたように、聖霊によって主が私たちの間におられます。聖霊の満たしによって、力強い福音宣教ができ、また教会も生きたものとなるのです。

最後に、パウロが私たち信者たちが、この絶大なる力に満たされることを願い、次のように祈りました。「エペ 1:17-19 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。」